広島県地域包括•在宅介護支援センター協議会
広報誌27号 2018年12月発刊
編集／広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会広報委員会　TEL(082)254-3416(直)　FAX(082)256-2228

研修報告 「自立支援多職種連携推進研修」

広島市南区民文化センターで開催した本研修は，予想を上回る参加申込みをいただき，追加開催を含めた計３回の実施で総勢３８０人の専門職の方々に参加していただきました！

これから手帳は、
来年の春、バージョンアップを予定しています！

contents

●巻頭言　広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会 理事　光野 雄三
●活動報告　福木・温品地域包括支援センター
●学びのページ　府中市民生委員児童委員協議会　会長　皐月 利夫
●特集ページ　（一社）広島県作業療法士会　会長　高木 節
●わたしのまわりの輝きさん　三原福祉サービス株式会社　代表取締役　吉田 健司

連載できるよう
テルコがんばります！

イメージキャラクター
テルコちゃん

「地域包括ケアの推進にあたり」

広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会
理事　光　野　雄　三

地域包括ケアシステムは、平成23年の国会において成立し、平成24年4月1日から施行された「介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」で法律上も位置づけられました。

地域包括ケアシステムは、日常生活圏域におけるサービスの提供体制であり、「住まい」「医療」「介護」「生活支援」「介護予防」の5つが主要なサービスです。地域包括ケア元年となった平成24年から6年経過し、在宅医療、訪問看護の十分な提供、医療と介護の連携、地域リハビリテーションの構築、低所得高齢者の住まい等の生活支援、認知症施策などで多くの課題が指摘されています。

ここで自身が診療を行っている呉市の現状に触れさせていただきます。呉市は少子高齢化の進展が著しく、全国における人口15万人以上の都市の中で、高齢化率が最も高くなっています。日本の10年先の未来を歩んでいるとも言われており、他市に先駆けた対策が急務となっていますが人材の確保が難しい状況が続いています。特に包括支援事業における三職種（社会福祉士・主任介護支援専門員・保健師）の人材不足は深刻です。また、国の地域支援事業交付金の算定方法の変更により、包括支援センターの委託金は減額となり、経営面でも事業の継続が困難な状況となっています。

地域包括ケアシステムの構築には、医療・介護・福祉従事者の確保、発掘・育成が必要不可欠であり、特に看護師の確保は喫緊の課題です。 また、関係従事者が働きやすい環境を整備する意味において保育施設の一層の充実が求められ、そこに従事する保育士の確保も重要な課題となっています。医療・介護・福祉に関わる人材、保育士も含めた全ての人材の確保、発掘・育成に向けた職場環境の改善や復職支援等の活動・支援などが必要であり、呉市医師会からも呉市に要望しています。

10年先の未来を歩んでいる呉市の現況を今後多くの市町村も経験することになると思われますが、人材の確保の問題は既に多くの市町村が抱えられている問題かと思われます。

人手不足の厳しい状況が今後も続くと思われますが、2025年問題を前に地域包括ケアシステムの確立は最重要の課題であり、世界各国のモデルとなる地域包括ケアシステムを構築するためにも医療福祉関係者、民間事業者、各行政担当者などの議論の積み重ね、実践が必要と思われます。

活動報告

各センターの取り組み、見守りについて

広島市福木・温品地域包括支援センター

認知症支援として開催した研修会について

当包括支援センターは、広島市東区内の4地域包括支援センターの中で、昭和49年に広島市東区に合併した旧安芸町（温品・福木中学校区）を担当しています。東区の中では一番高齢化が進み、高齢化率は28.29％（平成30年3月現在・高齢者8181人）になっています。その中で、認知症の高齢者も増加し、地域の方から、『どのように対応したら良いか』『もう施設を考えた方が良いのではないか』等の意見も寄せられています。

今回認知症支援の一環で開催した、医療と介護（地域）の連携研修会の様子を紹介します。

この研修会は、増加する認知症高齢者を、医療・介護（医師・薬剤師・看護師・介護士・リハビリ職員等）の関係職種だけでなく地域と連携して支援していくことを目的としています。

参加者は73名で、地域関係者として17名の民生委員にもご出席いただきました。以下の3点を工夫し、開催致しました。

1つ目は円卓を利用したグループワークです。包括から認知症高齢者の事例を発表し、9グループに分かれて、テーマに沿って話し合いをしました。その際に活用したものが、円卓です。段ボールでできた直径1mほどの円形のボード（円卓）を使ってグループワークを行います。椅子だけを準備し、輪になって座り膝に円卓を載せます。参加者は、テーマに沿ってカラーペンで意見を書きこみ、グループディスカッションをします。この方法の良い点は、机が不要なため狭い会場でもグループワークができることと、輪になって話すことで参加者の距離が縮まることです。

2つ目は認知症サポート医の井門ゆかり先生（井門ゆかり脳神経内科クリニック）から、認知症についてのミニ講座をして頂いた事です。前頭側頭型認知症について、介護関係者・地域の参加者にも分かりやすく説明して頂きました。自己本位的な行動や、毎日決まった時間に決まった事をするといった特徴がある等、医学一般的な知識だけではなく、実際のケースを提示したイメージがわきやすいお話でした。

3つ目は東区で独自に製作している横断幕の掲示です。「認知症になっても安心して暮らせるまち東区」と記載された横断幕を作成しており、認知症を地域で支えて行くスローガンを掲げています。多職種で連携して認知症を支援していくことを、視覚的に理解して頂くために会場のステージに掲げました。医療や介護、地域と立場は違っても、目的を共有しネットワークを作って行こうとの思いを込めました。

参加者のアンケート結果からは、「認知症の支援について思いつかない意見がいっぱいでした」「身近なテーマが良かった」とのご意見頂きました。また次回開催に向けて、議題や運営についての反省から、さらに中身の充実したものとなるよう取り組んでいきたいと考えています。

当包括支援センターの認知症支援活動は、さまざまです。認知症地域支援推進員との連携、認知症サポーター養成講座の開催、認知症カフェの支援、認知症初期集中支援チームとの連携、見守りネットワークの登録など、総合的にチームで業務にあたっています。「すべての活動はつながっている」ことを念頭に、多面的な支援ができる包括であるために日々努力していきたいと思います。

学びのページ

民生委員児童委員の活動　～見守り・相談・つなぎ～

府中市民生委員児童委員協議会　会長　皐月　利夫

○訪問活動
民生委員と協力員が地域のみなさんを訪問し談笑している様子

前々日から降り出した雨は、次の日の夜も一晩中豪雨が続きましたが、7月7日、朝を迎えるころには、少しずつ小康状態になってきました。

私は、外に出て周囲を見回し被害状況を確認しました。幸い大きな異変は見られませんでした。テレビでは、県内のあちこちで大変な災害が起きていることを報じていました。

早速、地域の一人暮らしの高齢者宅を訪問しました。安全確認、不安の取り除き、また、困っていることはないかを尋ねて回りました。私の担当地域では、ありがたいことに特に心配するようなこともなく、胸を撫でながら帰宅しました。

府中市北部の協和地区では、市街地へ通じる県道や市道の路肩が崩れたり、山崩れの土砂で封鎖されたりで、交通ルートは完全に遮断されてしまいました。

間もなく民生委員に届いた声は「通行止めになり、宅配弁当が来なくなりました。」さらには「糖尿病や高血圧の薬がなくなり、お医者へ行けなくて困っています。」というものでした。

食事については、地域の方々の協力のもと、当面手作りでできましたが、薬についてはどうすることもできず、何処へ連絡しようか迷いながらとりあえず包括支援センター（府中市役所長寿支援課）へ連絡を入れ相談をしました。医師会と連携され、医師、看護師、薬剤師・・・チームを組んで来て下さいました。

私たちの日常活動は、安全確認、生活課題の掌握と解決に取り組むべく「見守り」「相談」「つなぎ」を基本としています。

さて、私たちには、民生委員児童委員信条があります。その第3項に「一、私たちは、誠意をもってあらゆる生活上の相談に応じ、自立の援助に努めます。」とあります。

「誠意をもってあらゆる相談に応じる」ということは、「とにかく、きく」ことと捉えています。心配や悩み、嬉しかったことや日ごろの出来事、中でも困りごとは、「きく（聞く）（聴く）（訊く）ことから始まる」と考えています。そした、すぐに解決できるのか出来ないのか、何処へつなげばいいのか、一度持ち帰るべきか、などなど判断しながら「きく」必要があります。

次に、つなぎ先ですが、民生委員児童委員の全国アンケートでは、95.5％の委員が「つなぎ先はあった」と答えています。そのつなぎ先は、「包括支援センター」「役所福祉関係」「社会福祉協議会」で全体の85％以上となっています。

包括支援センターができてからは、高齢者の生活課題についての連絡先として大きな役割を果たして頂き、課題解決へと導いてもらっています。

これまでも、包括支援センターとは「虚弱高齢者」の状況や支援の情報交流に努めてきましたが、更にそのパイプを太くして、もっと細やかな支援ができるようにと、本年4月から毎月開かれる各地区の民生委員児童委員協議会定例会に、包括支援センターの職員が出席し協議するという連携強化に取り組んでいます。

「安心して暮らしたい」「ここに住み続けたい」という地域の人たちの願いに応えるべく、民生委員制度創設100周年活動スローガン「支えあう　住みよい社会　地域から」を胸に、活動を進めてまいります。

第2回　わたしのまわりの輝きさん

会員センターのまわりで輝いている方をテルコちゃんがご紹介します

輝きさん紹介メッセージ

吉田さんは、福祉用具販売・レンタルから住宅改修全般を扱う事業所の代表取締役です。
広い見識と多くの資格をお持ちの上、本来の業務はもちろんのこと、「笑いヨガ」「寄せ植え教室」「健康教室」等の定期的な開催や「衣動バザールの開催」で地域住民に集いの場を提供される等、まさに地域貢献として地域の活性化に取り組む姿勢は頭の下がる思いです。

三原市南部地域包括支援センター三恵苑　若林　裕旨

三原福祉サービス株式会社　代表取締役 吉田 健司さん

お写真は、職員の皆さんと！吉田さんは、左端です。

昭和28年神戸生まれ。大学卒業後は、鉄鋼メーカーに勤務。1995年、阪神淡路大震災で、ご自身のお母様が被災に遭われて以降、16年間在宅で介護されました。この経験を機に、2009年、三原福祉サービス株式会社に転職。これまでお世話になった方々への感謝の気持ちを胸に「地域包括ケアの推進と自立生活の支援」を目標に掲げ、「業務」+「地域福祉」に日々尽力されています。たくさんの活動の中から、この度は、定期教室の一部をご紹介します♪

「定期教室について」

毎月第2水曜日午前に開催。昨年4月に開始、以降15回開催しています。参加費無料。参加対象者は、地域にお住まいの方とそのご友人の方も一緒に参加可能です。活動場所は、三原福祉サービス株式会社事務所内で行う為、定員15名。教室の内容は、地域で明るく楽しく暮らすために必要な「安全面」、「健康面」、「笑い」、「創造」等をテーマに吉田さんが年間計画を策定し、半年前目途に必要に応じ講師を依頼し、準備に入るそうです。

笑いヨガ

吉田さんが講師として笑いと健康の話+「大笑い実践」を皆さんと行っています。参加者から、”ワッハッハッの社長さん”と呼ばれています。三原市内の施設等にも出前教室にも出かけているそうです。

寄植え教室

園芸専門家を講師にお招きして実施しています。「春」「秋」の2回開催し、四季折々の花々で、「マイ・植木鉢」を創作。今年12月には開催では、年末年始、「我が家の玄関を彩る鉢」を創作します。新たな専門知識の習得と創作活動は、脳の活性化にとても効果的ですね！

楽しい企画はもちろんですが、高齢者の方の不安解消の為、「電動車安全運転教室」、「家の寿命とメンテナンス教室」等も開催したりと吉田さんは、広い視野で高齢者の方の暮らしが豊かになる企画、実施中です。興味のある方は、HPで「三原福祉サービス株式会社」でぜひ検索してみてください♪http://miharafukushi.com/

笑いヨガと寄植え教室の様子

吉田さんの将来の夢は、「地域の皆さまと明るく活発に暮らすこと！」。

より明るく楽しく安心して暮らせるように、さまざまな企画で地域を盛りあげている熱いハートをおもちの輝きさんでした！

＜定期教室についてのお問合せ先＞

三原福祉サービス株式会社広島県三原市中之町二丁目8-15　　TEL　0848-63-5083

特集

作業療法士の提供する「作業」について

（一社）広島県作業療法士会
会長　高木　節

皆さんが働いている中で、一度は作業療法士と共に働いた事があるのではないでしょうか。リハビリテーション分野の専門職として関わらせていただいている事と思いますが、今回は、作業療法士（Occupational Tharapist＝OT）についての紹介させていただきたいと思います。OTとは、「作業」を利用して、生活をより良い健康な（役割が果たせている）状態に導く職業です。ただ、私たちOTの言うところの「作業」とは、手芸や手作業などの狭い意味での「作業」ではなく、対象となる人が生活の中で「したい事」・「しなければならないと考えている事」を指しています。

具体的な作業の例を出すと、対象者が子供ならば「あそび」を利用して訓練をします。歌やブランコ、お絵かきの中で関節の動きや力の入れ方、バランス、集中力や持久力向上、社会性の獲得など様々な要素を利用して能力の回復を図ります。働き盛りのお父さんなら「仕事」になるかもしれません。大工なら釘を打つ、のこぎりを挽く、木を運ぶかもしれません。直接的な筋力をつける事から始まる事もあります。営業なら、車の運転技術や計算、書字などの練習をします。家族を支える給料を稼ぐ為に、仕事の獲得の支援が作業になります。主婦の方なら「家事」となります。調理、掃除、洗濯などの行為が作業になります。最初から目的の家事ができなければ、段階を踏みながら献立の作成、調理動作、後片付けなど段階ごとに出来る事を増やしていくことになります。お年寄りなら、安心して家で暮らせることが目的になり、「日常の生活」を出来るだけ自分でできる事が作業になるかもしれません。心が傷ついて、何もしたくない気分の人には趣味活動を探してみることや、ゆっくりと出来る生活習慣を考える事が作業になります。

この様にOTが提供する「作業」は、対象になる人によって様々に変化します。人にはそれぞれの役割や楽しみがあり、それを感じることで自分の存在の意味（自己効力感）を実感し、生活を続け生き甲斐としています。最近では生活行為向上マネジメントという、皆さんにもわかり安いツールをつかい紹介をしています。当法人のホームページにもムービーがあります（下記のQRコードで直接見れます。）ので、閲覧していいただけると幸いです。病院・施設・在宅で提供している形は異なりますが、皆さんの周りにもOTがいると思います。機能回復や身体能力の改善に目を向けがちなリハビリテーションですが、その人らしい生活を支える為の生活課題を改善どう変えれば良いのか？そんな話ができる関係ができると嬉しく思います。

研修報告

自立支援多職種連携推進研修

〔開催日　第1回 8月28日、第2回 9月26日、第3回 10月17日〕

本会が事務局となっている自立支援多職種ネットワーク会議において、作成した自立支援ツール「これから手帳」を活用し、多職種連携のあり方、ツールの効果的な使用方法の理解を目的とした研修会を計3回 広島市南区民文化センターで開催しました。

当初は、1回のみの開催を予定していましたが、予想を上回る参加申込みがあった為、第2回、第3回と追加開催することとなり、総勢380人の専門職の方にご参加いただきました。

実際にご参加いただいた方々の研修会の感想を一部ご紹介します！

第１回　8月28日参加者の声

●　多職種連携を取る上でCMの立場だけでのアセスメントで足りない部分を専門職の視線からのアセスメントを共有できて良いツールだと思った。 （8/28研修会参加　居宅介護支援事業所　社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員）
●　利用者の方といっしょにアセスメントする形になっていいなあと思いました。試してみたいです。（8/28研修会参加　小規模多機能　社会福祉士、介護支援専門員）
●　自立の定義が分かってよかった。 （8/28研修会参加　地域包括支援センター　社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員）
●　このツールを特に関係職種が活用する場面を具体的に知りたいと思います。今回のロールプレイは、包括の方が活用する場面でしたが…。包括の方が利用者さんを紹介して下さる時にこの手帳を持っておられることを教えていただけるとありがたいと思います。 （8/28研修会参加　通所サービス　作業療法士）
●　これから手帳の内容はとても分かりやすく、ぜひ住民の方に広めていきたいと考え、広報しています。手帳の中に次回はぜひ保健師も入れて頂ければ幸いです。これから手帳を地域の出前講座で使ってみたい。又ケアマネジメントBなどで利用したいと思います。 （8/28研修会参加　地域包括支援センター　看護師、介護支援専門員、その他保健師）
●　これから手帳がもっとメジャーになる様、願う。コマーシャルでながすとか。多くの方が知り、一人をみんなで支え、情報共有のツールとなる事を願う。一人の人を多職種が支えるためには情報の共有が大切。　（8/28研修会参加　通所サービス　看護師）
●　広島市でも同じように、この考え方を推進してほしい。温度差を感じます。「これから手帳」を入口としてACPまでサポートしていきたいと思います。 （8/28研修会参加　通所サービス、認知症協同生活介護、ＮＰＯ介護福祉士、その他ボランティアコーディネーター）
●　多職種でアセスメントについて良く考えられたツールであることが良く分かりました。手帳もケアマネが持ち多職種での会議やしばらくして利用者に見せるのも良いのではと思いました。 （8/28研修会参加　行政機関）
●　これをいずれは多職種が、どのように共有し、どのような目的で利用するのか、所属先の団体とそこに関係職種との意識統一をまず、しなくてはならないのでは、と思っている。今日は包括対象でしたが、他の職種でも同様の研修を行っているのでしょうか？連携を行いたい職種がこれを知らなければ。まずはこのツールの説明からしなければならないのでしょうか。 （8/28研修会参加　地域包括支援センター　社会福祉士、その他精神保健福祉士）

第２回　9月26日参加者の声

●　いつまでも自分らしくノートを利用すると、基本チェックは必要ないかも。 （9/26研修会参加　地域包括支援センター　介護福祉士、介護支援専門員）
●　マニュアルの質問事項や聞き方など詳細な例がつくられていて活用しやすいと思いました。当社でもスタッフのアセスメント力向上が目標として設定されているので、参考資料としても使わせていただきたいと思います。 （9/26研修会参加　訪問サービス 社会福祉士、介護福祉士）
●　お薬手帳や心不全手帳、ＡＣＰパンフなど紙のものが増えて、利用者が混乱するのではないか。１枚のシートであればより使いやすい気がした。ポジティブに聞き取ってゆく考え方などは大変参考になった。チームで取り組む事はとても良いと思った。 （９/２６研修会参加　居宅介護支援事業所　社会福祉士、介護支援専門員）
●　基本チェックリストはネガティブな表現なので聞きづらい面があるが、この手帳の表現はポジティブなので良いと思った。点数をつけていく作業は少し大変かと思う。パソコンなどで入力できればよいと思いました。 （９/26研修会参加　居宅介護支援事業所　看護師、歯科衛生士、介護支援専門員）
●　事前に「これから手帳」のみ入手していたので、使い方がよくわからなかったのですが、マニュアルを今日いただいて納得いきました。厚労省２５項目チェックリストをさらにレベルアップされたという印象です　（９/26研修会参加　病院医療関係機関　歯科医師）

第３回　10月17日参加者の声

●　認知が進んだ方（進行が早い方）にはどのようにすればよいのかなと思いました。 （10/17研修参加　病院医療関係　歯科衛生士）
●　マニュアルとノート見開きにするか、上下２段でわかりやすくするかしてほしい。膝の上で開くには限度がある。（10/17研修参加　居宅介護支援事業所　栄養士、介護支援専門員）
●　いろんなツールがたくさんあって、どのツールがいいのかわかりにくいと思います。私たちがもっとツールの理解をして、どのような目的で、どの場面で、どう活用していくか、考えていかないといけないと思いました。 （10/17研修参加　地域包括支援センター　社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員）
●　チェックリストと連動しているところが良い。聞き取りの参考にもなりました。 （10/17参加者　地域包括支援センター　介護支援専門員）

現在、自立支援ツール「これから手帳」は、来年春の改訂にむけて、自立をささえる専門職の皆さまからのご意見をお待ちしております。研修等で配布したアンケートに回答し忘れた方がいらっしゃいましたら、ぜひご回答していただければありがたいです。「これから手帳」を通して、専門職が本人の自立の想いを共通理解できるよう、引き続き普及啓発に取り組みます。

広島県 編集後記
地域包括・在宅介護支援センター協議会広報誌

●先日、地元ケアマネ会の事例検討会に参加して、すごい勉強させてもらいました。やはり、地元で実践されている事例からの学びは、純粋にやる気をもらえる気がします。（荒木　和美）

●われらがカープ、三連覇ですね！平成最後の年、いろいろ大変なことがあった1年でした。次の時代が明るい新時代になるよう祈念します。（若林　裕旨）

●今年は、豪雨災害と猛暑に見舞われ、防災の大切さを身に染みて感じた夏でした。あっという間に秋から冬ですね。寒さへの備えを考える今日この頃です。（牧野　優子）

●『平成』も終わり新しい時代が始まります。子や孫たちに平和な時代を引き継げるようにと願っています。（高森　裕美）